

式 辞

琵琶湖の湖面が春の日差しを受けてきらめき、比良の山々に新緑が芽吹くこの佳き日、本学に新たな仲間を迎えられることを、大変うれしく思います。本日はご入学誠にめでとうございます。ご家族の皆様にも心よりお喜び申し上げます。全国でも50以上ある体育・スポーツ系大学の中から本学を選んでくださったことに心より御礼申し上げます。

学生のみなさんがこれまで頑張ってきたことが本日の入学につながっていますが、経済的にも精神的にも支援を続けてくださったご家族のみなさまに、学生のみなさんは心から感謝をしてください。この場にいることが当たり前のように思うかもしれませんが、大学に行きたくても行けない人も世のなかにはたくさんいます。2024年の大学進学率は59.1%でしたから、同年齢の4割くらいの方は4年制大学に進学していません。自分がいかに恵まれた環境にあるのか、ご家族のみなさん、学校の恩師、スポーツの監督・コーチ、そして友人への感謝の気持ちを忘れないでください。後援会副会長の長 伊久男 様、蹊友会会長の藪田 一子 様、びわこ成蹊スポーツ大学教育振興会会長の伊庭 由紀野 様にご臨席賜り誠にありがとうございます。

今年は、滋賀県で44年ぶりに2度目の国民スポーツ大会と障害者スポーツ大会が開催されます。本学の2年次生は授業として、全員が障害者スポーツ大会の運営に携わります。また、男子サッカー部や男子バレーボール部、女子ハンドボール部は滋賀県代表として試合に参加しますし、陸上競技部からは滋賀県代表の選手として競

技に臨みます。選手だけでなく、審判や大会補助役員など、国スポ・障スポの開催県にあるスポーツ大学だからこそ、大きなチャンスがあります。

本学は2003年の開学から23年目を迎えますが、入学定員は開学当初の180人から360人まで2倍に増えており、それは日本のスポーツ産業界が発展し、社会から本学学生への期待も高まっているからと言えます。そのような中で、昨年4月には従来の6コースを8コースへと改組しました。スポーツは「する」、「みる」、「ささえる」という3つの側面を持ち、対象も子どもから高齢者まで幅広いです。今回の改組によって本学独自の「スポーツ学」の領域をこれまで以上に分かりやすく示しました。

さらに、今年からは、少人数教育でアクティブラーニングの典型である「ゼミ」と「卒業論文」を最重要科目に位置付けました。全コース3年次からのゼミは、同じ曜日・時限で固定化し、その他の科目はそれ以外の曜日・時限に配置しました。ゼミを通じた卒業論文の執筆は、学生自身が大きく成長し、自信を持つ大切な機会です。コロナ禍ではオンライン授業が確立しましたが、やはり演習・実習・実技は対面でこそ効果が上がります。小規模大学ならではの学生一人ひとりに寄り添ったきめ細かい教育を行っています。また、新カリキュラムでは、1年次は学部共通の基礎・専門・教養科目を学び、2年次からは各領域・コースへ進みます。各コースは希望制ですが、定員が設定されており、1年次の成績によって希望のコースに進めるかが決まります。学生のみなさんは1年次からしっかり学業にも向き合ってください。

本学の学びを紹介する中で忘れてはいけないのは、自然環境を用いた野外教育です。標高 1,000 メートルの比良山地と白砂青松の琵琶湖西岸に挟まれた恵まれた自然環境にある本学には特徴的な野外教育・アウトドアスポーツ実習があります。キャンパスからは琵琶湖も比良山地も徒歩ですぐ行くことができます。登山とキャンプは入学して最初に受ける必修科目「フレッシュマン・キャンプ・セミナー」で全員が体験します。その他にも琵琶湖でのカヤック実習、ウィンドサーフィン実習もあり、冬にはスキー実習もあります。まだ授業では利用していませんが、びわ湖バレイスキー場、18 ホールの比良ゴルフクラブ、関西最大の乗馬クラブ、多数のセーリングクラブ、自転車琵琶湖一周コースなども身近にあり、アウトドアスポーツに最適な環境が整っています。これらの資源が身近にあることが本学の最大の強みともいえます。アウトドアスポーツ教育を専門コースとして設置している大学は全国でも本学のみであり、著名なアウトドアメーカー「株式会社モンベル」とも包括協定を結んでいます。

本学は、開学から 20 年を越えた現在も、常に新たなチャレンジを行っており、代表的な取り組みとして、文部科学省令和 6 年度の支援事業に応募し採択されました。そのテーマが、「スポーツ×自然×デジタル」です。今やスポーツは、データ分析による戦略構築が常識です。新カリキュラムでは、データサイエンスと生成 AI の活用を強化しています。生成 AI の活用スキルを学び、卒業論文や研究に活かす機会を充実させていきます。学内に設置された「アスリート・サポートステーション」では、

最先端の測定機器を活用し、蓄積したデータを分析・研究へとつなげるとともに、学生アスリート個人へのフィードバックや各運動部への戦略提供などができるようにしています。また、学内で「スポーツデータ分析コンテスト」を開催し、学生の自主的な研究発表を促しています。スポーツデータ分析の専門教員を揃えていますから、この分野も強みにしていきます。

また、学生たちが積極的に地域や現場で活躍する機会を数多く設けるとともに、スポーツを通じた社会課題の解決にも貢献しています。例えば、京都市や本学が隣接する高島市とは、中学校運動部活動の地域移行・展開へのフィージビリティスタディを経済産業省とともに行いました。就学前児童と小学校低学年の子どもたちと学生たちが運動あそびを行う「びわスポキッズプログラム」を県内各地で展開しており、地元の小中学生向けにはキャリア教育プログラムも提供しています。その他にも、高齢者向けの健康体操など周辺の自治体・施設から様々な声がかかります。こうしたプログラムにも学生のみなさんが希望すれば参加ができるのも特徴です。

先月 21 日にスポーツ学部第 19 回、大学院スポーツ学研究科第 12 回の学位授与式を執り行いましたが、開学以降 5,539 名の卒業生を輩出しています。本学の特徴をお話する時に必ず紹介することが、「就職実績」です。本学の就職状況をみれば学生の成長率が高いことは一目瞭然です。これまでの卒業生のうち 1,132 人が教員として教壇に立っており、直近 5 年間の教員採用の合格者のうち、滋賀県の中学校では 3 人に 1 人、京都府の高校の 5 人に 1 人が本学の卒業生です。スポーツ系企業にも 1,127

人が務め、警察・消防などの公務員として 555 人が働いており、本学の就職率は 100% を誇ります。

最後に、本学で開学から受け継がれる 2 点についてお話します。1 つ目は「禁煙」です。本学は日本で最初に「タバコのないキャンパスづくり」を宣言した大学でもあります。恵まれた自然環境を汚さないこと、そして学生自身が健康な生活習慣を身に着けるためにも、禁煙は徹底しています。2 つ目は「挨拶」です。本学を訪れた方は、学生が必ず笑顔で挨拶することに驚かれます。この「禁煙」と「挨拶」は、1 期生の先輩から受け継がれ、大切に守られてきた本学のレガシーです。

改めて、日本で初めてスポーツを冠した本学にようこそいらっしゃいました。恵まれた自然環境を活かしたアウトドアスポーツ、最新の測定機器と生成 AI の全学導入によるデータ分析、地域とともに幅広い世代の運動・健康支援を通じて、今後の成熟社会で重要となるウェルビーイングを志向する、未来の人材養成の可能性に満ち溢れた大学なのです。自然豊かなキャンパスで 4 年間ともに学び、大いに語り合いましょう。ご入学おめでとうございます！

2025 年 4 月 2 日

びわこ成蹊スポーツ大学

学長 間野 義之